



# Any アートアジェンダ 2023 (案)

## I 全般構成

## II 新たな重点計画と方針

A：独自テーマの設定：「川 Narra 柏原」構想のブレークダウン

B：実行委員会の改組：文化芸術基本法の改正の考えを踏まえた新組織連携

C：アートなまちづくり：空間環境の基盤整備

## III 既存計画と方針の展開

1 いかす・つながる・めぐるアート（理念戦略）

→かしわら芸術祭 2021 から更なる発展へ

2 パワーアップ（アクション戦略）

→弱点の明確化、機能強化と組織改善

## 補足資料

1 文化芸術基本法（2016.6 改正）

2 かしわら芸術祭実行委員会（2023.4.組織構造）

3 <地域構造>アートなまちづくり

4 （理念系）①いかす②つながる

かしわら芸術祭 2023（柏原ビエンナーレ第 10 回）

開催日程

2023/10/28(土)～11/5(日)予定

## I 全般構成

2023のAnyアートアは、三つの背景と課題のもとで構成される。

3年間のコロナウイルスによるパンデミックから脱皮し、新しいステージにおけるアフターコロナに向けた地域からの気力や活力の回復が求められています。また、今年の「かしわら芸術祭(柏原ビエンナーレ)」は第10回を迎える中、今後の芸術祭のあり方についても新たな展開が求められています。さらに、「いつでも、どこでも、だれでもアート<Anyアート>」をかかげ、日常の生活にアートを生かし地域魅力を高めた新たな価値の創造をめざすためには、アートなまちづくりに向け<Anyアート>の進化が求められている。

そのためコロナ禍の影響を受けながらも展開した2022Anyアートアジェンダの総括を踏まえ、活動の突破できていない課題の解決が求められる。中でも、この間で明確になってきた、かしわら芸術祭の独自性と、新たな展開を図る組織基盤の構築、アートの空間環境の整備に向け、次の3つの点を重点的な取り組みの柱として集約する。

### A：独自テーマの設定：「川 Narra 柏原」構想のブレークダウン

ローカルな地域の原点に回帰し地域歴史特性を踏まえ「川物語」をテーマに、地域空間や資源を生かすアート表現手法として、①参加型アート、②エコアート、③インタラクティブアート、の三要素を最大限取り入れ「アートなまち」づくりをめざす。

### B：実行委員会の改組：文化芸術基本法の改正の考えを踏まえた新組織連携

法改正は文化芸術の振興を狭い範囲に限定せず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との連携及び、新たに必要な施策の例示に「芸術祭の開催」への支援を追加された。このことを受けて実行委員会の本来のあり方に戻った組織対応めざす。

### C：アートなまちづくり：空間環境の基盤整備

新たに子どもワークショップの常時利用会場や廃品・廃材の管理活用の「柏原レ・ミダ」など日常的な利用拠点の整備確保の課題もあり、公共空間の有効利用として既存施設のリニューアルや展覧会等への開放を含めた「アートなまちづくり」として、本格的なまちづくり活動と連動が求められている。

さらに以下のAnyアートアジェンダの理念、アクションの着実な推進を行う。

#### 1 (理念系) ①いかす②つながる③めぐる

① いかす：資源・実績を活かす・生かす

→①は、今年度活動の分析と評価を元に、子どもを中心としてワークショップの展開と、「川 Narra 柏原」など地域の独自テーマの具体化を芸術祭に向けて展開する。

② つながる：人やグループとの関係拡大／強化

→②中心の連携協働は、個別にキーになる人材とのコネクションの強化と共に、組織的な連携方策を打ち出す必要がある。柏原芸術祭実行委員会の改組も視野に。

③ めぐる：回遊性の改善

→③については、カシモの「デジタルスタンプラリー」を芸術祭でも導入に向け、担当者を決め積極的に活用方法を深める必要がある。

#### 2 (アクション系) ①ブランド②サポーター③運営体制の3つの面からのパワーアップ

① ブランド面では、シンボルカラーの設定とAnyアート手ぬぐいは前進したが、具体的な活用に至っていない。

② サポーターの確保については、手ぬぐいの活用も含め新たな対応もできていない。

③ 運営体制については、事務局長を中心に役割分担、定例会議の組織化は安定してきたが、メンバーの増強が進まず財政問題など課題も多い。

→弱点である組織面での活動について、あり方等の抜本的な組織議論が不可欠で、現状の受け身のスタンスから脱却する積極的な取り組みが急がれる。

## II 新たな重点計画と方針

## A：独自テーマの設定：「川 Narra 柏原」構想のブレークダウン

ローカルな地域の原点に回帰し、地域歴史特性を踏まえた川で物語るをテーマに、今回、地域空間や資源を生かすアート表現手法として、次の三要素を最大限取り入れる。

- ① 参加型アート:参加者がアーティストの考えに立ちアートのパラダイム転換をめざす Any アートの具現化
- ② エコアート:SDGs や地域の事業所・家庭からの廃品廃材素材の活用化
- ③ インタラクティブアート:自然環境や人の動きなどのデータを用い光・音・映像や触れられる表現で可視化、プロジェクションマップなどデジタルアート活用

「アートなまち」づくりをめざし「時の川」の船着場から「未来に対して私たちが届けるべきモノは何か」を人々と共に考える物語 (narrative)として「川 Narra 柏原」がテーマ。

そのためワークショップ形態で人を集め、参加者はアートディレクターのアドバイスを元に、プロットタイプで試行しながら共同で制作。

「川 Narra 柏原」は、未来への希望としての「光」と、モノを動かし社会を変革する「風」とヒトをつなげ、動かし、つくり、子どもたちの未来に伝える「かたち」で構成。

- ① 「風の川」(樋口尚)「川をつなぐ+」「川を彩る回廊」
- ② 「川から生まれるかたち」(U-KO+松田真魚)紙と布をはじめ廃品廃材などを生かし、川から生まれる多彩なアート。子どもたちの未来に届けるタイムカプセル「シン・柏原舟」を創造
- ③ 「光の川」(大阪芸大チーム：木塚あゆみ)川から得たセンシングデータをもとに、古代から現代、未来へとつながる川の物語を体験するインスタレーション作品

「手ぬぐいアートのまち」「光の ANDON ストリート」と共にまちの中心市街地を舞台にアート作品を配置

なお、②は『シン・柏原船』プロジェクト (MAP 提案) と連動して取り組み、①③も相互に有機的につなげていく。

## B：実行委員会の改組：文化芸術基本法の改正の考えを踏まえた新組織連携

2016.6 改正された文化芸術基本法の主旨は2つで

- 1.文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと
- 2.文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること

であり、基本施策の中で、必要な施策の例示に「芸術祭の開催」への支援を追加された。

これを踏まえ、現在の個人参加方式の組織から、2016 年地域の関係団体・組織とも連携した柏原ビエンナーレ実行委員会 (2016.8) の組織形態を参考に、文化芸術基本法の改正の主旨を踏まえ、今後の地域の各分野と有機的に結びついた芸術祭をめざし、新たな実行委委員会に組織を改組する。

実行委員会委員は、①いかに②つながるやハッピー連携を基礎に、各分野の団体・グループ等の参加を求め新たに理事会を組織し、地域団体とのネットワークを広げる。

現行の形態の継続を基本に、事業推進サポート組織は Any アートとし、運営委員会を核に新たなメンバーを確保し活動を強化する。

## C：アートなまちづくり：空間環境の基盤整備

地域アートプロジェクトの中で「Any アート」が、独自性を確保するためには、地域におけるアートの基盤整備が重要で、そのため期間限定イベントとしての芸術祭ではなく「アートなまちづくり」という観点から、次の3つの OUTPUT を目標とする。

### ① 拠点整備「Creative Base Hub(CBH)」

空き公共空間を活かし、アートに関わる元気な人が集まる交流協働複合機能を有する空間拠点の整備

- ・アートコミュニティベース：アトリエ、ギャラリー、制作レジデンス、WS、インキュベーションラボ

- ・かしわらレジジョ：クリエイティブ・アート/リソースセンター：エコとか SDGs を意識した表現素材を収集管理活用

- ・コンシェルジェ：人と人をつなげ多面的に支援するコーディネーターの配置
- ② 推進組織:推進 BODY「River Narrative Consortium(RNC)」  
Any アートと MAP(Mirai Art Platform)を核に新世代の自立分散型の組織運営のアートなまちづくり組織
  - ・スマートシティとの連携と一般社団法人格の取得
- ③ まちづくりのバックホボーン「Creative City(CC)」  
他の地域でのユニークな都市宣言を参考に「アートを活かした魅力あるまち・柏原」宣言を行い、「柏原市芸術文化基本条例」の策定に展開

以上の活動を進める上で、「川 narra タウンミーティング」を開催する中で、アートなまちづくりにつながる「スマートシティづくり」の調査研究活動を通じて、実現に向けた取り組みを行う。

### Ⅲ 既存計画と方針の展開

#### 3 いかす・つながる・めぐるアート（理念戦略）

→かしわら芸術祭 2021 から更なる発展へ

- ①いかすアート：資源・実績を活かす・生かす
  - ・「Any アート」のスタンダードの構築・・・柏原の、市民による、市民のための芸術祭  
ユニークで、新しく、面白い、みんなが参加したくなる芸術祭に！  
柏原らしさ（「Any アート 99」掲載の資産・資源）の探索・更なる発掘・活用  
市内の各まちづくりの団体と、連携・連動。地域の特徴を活かす
- ②つながるアート：参加アーティストや連携団体・グループとの関係強化
  - ・人的関係強化、拡大に向けてネットワークづくり  
＜アーティスト・グループ＞＜地域連携団体＞
  - ・若年層、学生、児童などの次世代を担うアート人材資源の育成支援
  - ・「アーティスト Note」づくり：個人・団体を主体に紹介
  - ・情報発信：主なアーティストのプロフィール/作品/制作風景、SNS 等で発信
  - ・アート交流会：コムラボをベースに定期開催をめざす（毎月）
  - ・ワークショップ、グループとの関係強化。
- ③めぐるアート：回遊性の改善 → エリア再考 ⇔ 地域を知る
  - ・まち歩きを楽しみながら地域アートの基盤を拡大
  - ・「遊び」の感覚を取り入れ、KashiMo などデジタルツールの活用、ビンゴ式スタンプラリーの導入、レンタル自転車の活用
  - ・ポスター、幟などの案内告知サインの設置場所の再考と展開拡大

#### 2 パワーアップ（アクション戦略）

→弱点の明確化、機能強化と組織改善

- ①ブランド戦略の強化：Any アートをシンボリックに改善
  - ・シンボルカラーの設定：ぶどう色
  - ・関連グッズの制作：例) Any アート柄やロゴの手ぬぐいスカーフ、マスク、シール・缶バッジなど
  - ・キャラクターの設定：Any アートのロゴやカラーを連想させるキャラクターを検討
  - ・プロモーションアドバイザーによるサポートシステムの整備。
- Any アート手ぬぐいをはじめグッズ販売を含め収益事業等組織のあり方も追究。
- ②サポーター獲得対策：Any アートファンづくり
  - ・ワークショップやアートめぐりを通じて、ファンを呼び込む
  - ・関連グッズや資料の提供で、ファンを開拓、組織化につなげる
  - ・Any アートフォーラムや交流会の開催で人的ネットワークを拡大
- タウンミーティングやコムラボを活用した交流ネットワークの充実。
- ④ 運営体制の強化：運営委員会の強化と有機的で柔軟な連携
  - ・事務局組織の軸と組織整備：事務局役割分担明確化
  - ・運営委員会、理事会など定例会議の運営の機能整理と組織化

- ・財政確立、助成金等の確保：事業化支援組織（一般社団法人化も想定）  
（次年度開催に向け、新たな資金源（補助金、助成金）を探す。（D/L：8月）  
→Any アート総会を目処に具体化。

## 補足

かしわら芸術祭 2023 に向けて

<前提整理>

- ・かしわら芸術祭 2023 としての独自性：テーマ設定
- ・参加形態：グループやインスタレーションに力点。
- ・特別参加：アーティストの発掘調査：アドバイザーを核にしたアーティストグループの組織化と会合により案作成：出展メリットの創出：地域・場所・支援システム
- ・TORIO 『グラン・ファミリー+』：日本の歴史上の人物肖像画、河内版、川 Narra 版
- ・物販整理：アートフェアは期間や会場を分離、マルシェとの連携、または「ハッピー連携」で対応：（をかしわらマルシェ、オガタ通り商店街マルシェなど）

→展示スペースの確保・拡大・常設化：継続的なアート空間として活用可能性の開拓

→文化センター、公民館、図書館などを借用可能期間だけでも活用も検討

→展示設営チームの組織化

- ・会場地域：国分駅ゾーンは2年に1回の間で開催予定。

（参考）国分駅ゾーン；ふれあいステーション国分、関西福科大、大阪教育大、玉手山公園

## 文化芸術振興基本法の一部を改正する法律概要

### 第一 趣旨

1. 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと
2. 文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること

### 第二 改正の概要

#### 1. 題名等

法律の題名を「文化芸術基本法」に改めるとともに、前文及び目的について所要の整理を行う。

#### 2. 総則

基本理念を改めるとともに、文化芸術団体の役割、関係者相互の連携及び協働並びに税制上の措置を規定する。

〈基本理念の改正内容〉

①「年齢、障害の有無又は経済的な状況」にかかわらず等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境の整備、②我が国及び「世界」において文化芸術活動が活発に行われる環境を醸成、③児童生徒等に対する文化芸術に関する教育の重要性、④観光、まちづくり、国際交流などの各関連分野における施策との有機的な連携

#### 3. 文化芸術推進基本計画等

政府が定める「文化芸術推進基本計画」、地方公共団体が定める「地方文化芸術推進基本計画」（努力義務）について規定する。

#### 4. 基本的施策

- ① 芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能の振興について、伝統芸能の例示に「組踊」を追加するとともに、必要な施策の例示に「物品の保存」、「展示」、「知識及び技能の継承」、「芸術祭の開催」などへの支援を追加。
- ② 生活文化の例示に「食文化」を追加するとともに、生活文化の振興を図る。
- ③ 各地域の文化芸術の振興を通じた地域の振興を図ることとし、必要な施策の例示に「芸術祭への支援」を追加。
- ④ 国際的な交流等の推進に関する必要な施策の例示に「海外における我が国の文化芸術の現地の言語による展示、公開その他の普及への支援」及び「文化芸術に関する国際機関等の業務に従事する人材の養成及び派遣」を追加。
- ⑤ 芸術家等の養成及び確保に関する必要な施策の例示に国内外における「教育訓練等の人材育成への支援」を追加。

など

#### 5. 文化芸術の推進に係る体制の整備

政府の文化芸術推進会議、地方公共団体の文化芸術推進会議等について規定する。

### 第三 その他

文化芸術に関する施策を総合的に推進するため、文化庁の機能の拡充等について、その行政組織の在り方等を含め検討を加え、必要な措置を講ずる。

（平成29年6月23日公布・施行）

## 2 かしわら芸術祭実行委員会

### ・組織構造

国の基本法の趣旨に沿って、地域の各分野の団体・グループ等の参加を求め、新たに理事会を組織し、地域団体とのネットワークを広げる。なお、事業推進サポート組織は Any アートとし、現行の形態の継続を基本に、運営委員会を核に新たなメンバーを確保し活動を強化する。

### かしわら芸術祭実行委員会

理事会                      Any アート：事業推進サポート組織

事務局      —      運営委員会

### ・団体等への依頼内容

実行委員会参加団体

：理事最低1名選出：年間3回程度

：グループ・団体・機関・企業等の連携支援領域

### ・行政と関係

行政：連携協定の締結

：調整窓口の設定

：広報協力

：会場等施設・公共空間の提供

：許認可関係の支援

### ・名称表現の統一

かしわら芸術祭（KASHIWARA ビエンナーレ）

参考：構成：(2016.8.1 現在)

：アーツプロジェクト・イン・おおさか柏原(アッポコ)

：イエローライン・プロジェクト

：オガタ通り商店会

：柏原市商工会

：カタシモワインフード株式会社

：京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻中村研究室

：慧生（けいせい）坐禅会 世話人会

：国立大学法人大阪教育大学

：特定非営利活動法人かしわらイイネット

：早川繊維工業株式会社

：響キ前線

：ホルベイン工業株式会社

共催：柏原市

柏原ビエンナーレと柏原市との連携協定(2016.5.1 締結)

### 3 <地域構造>アートなまちづくり

基本構造：柏原駅ゾーンの中心市街地を核に構成

→JR 柏原駅を中心に、近鉄堅下駅からオガタ通り商店街と大正通り商店街などを繋ぐ軸



#### <会場案>

- ：ヤマニシデンキ、ふれあい館オガタ、
  - ：アゼリア柏原 6F、駅前ロータリー、JR 柏原駅自由通路
  - ：Bed&Bicycle, ノーウェア柏原、大正ポケット、大正ネスト
  - ：柏原神社<今町>、旧ハローワーク駐車場、櫻湯
  - ：長瀬川アクアロード、了意川
- 野外の公共空間などを積極的に活用し、アートなまちにつなげる。
- ：周辺：かふえたかい、カタシモワイナリー、ほのぼのかたしもなど
  - ：開発可能性：商店街他の空き店舗、仏照寺<本郷>など

#### 4 (理念系) ①いかす②つながる：赤字新

##### <アーティスト・団体>

かしわらをえがく

- ・家近グループ
- ・こうのとりさゆり
- ・安田ゆうこ：
- ・木村静・中浦真一
- ・むげん：小西勝
- ・カプリッチョ/オイルポット
- ・清水一意：
- ・柏原高校美術部顧問：

##### WS 関係

- ・森山陽介：新絵画教室 My アート
- ・もっさんみいこ：工作絵画教室：
- ・茶吉庵組若手：辻笙
- ・U-KO：浅野
- ・松田真魚：浅野

##### 福武財団申請

- ・浜本隆司：ビセン G
- ・樋口尚：野外アート
- ・木塚あゆみ：大阪芸大アートサイエンス

##### MAP コムラボ

- ・平井互：
- ・加藤可奈衛：教育大コミュニケーション  
とアート「地域とコミュニケーション」

・桐山：

・中井：市都市政策係長

・松井：

##### その他

- ・麗光：アトリエ麗光：浅田
- ・高森景子：他へも広がりフォロー
- ・中川かつひこ：櫻湯
- ・木津美幸：
- ・岩本貞泉・書：
- ・松原一彦：
- ・多保義之：
- ・清水章禪：和楽：尺八：
- ・大和板紙：専務・瀬尾重雄、担当者
- ・七洋歯車製作所：代表・田中誠一郎

##### <地域連携グループ>：担当

- ・くるくる：西村優子
- ・イエローライン PJ：加藤
- ・わたの日：浜崎
- ・社協ボランティア連絡会議：小柴
- ・タントタントまちづくり事業部：浜爺
- ・かしわらいイネット：大村吉昭
- ・ディサービス連絡会：土井
- ・茶吉庵：萩原/濱谷：塚畝
- ・かしわら手ぬぐい WeeK 実行委員会：柏元
- ・をかしわらマルシェ：
- ・てんとう虫の会